



不安だらけのマリー



haru



目次

不安だらけのマリー	1
---------------------	---

不安だらけのマリー

ここはハート王国。ハート王国の王様は、心がホカホカあたたかい王様です。

王様はある日、たくさんの国民をしょうたいして、おしろでコンサートをひらくことにしました。人気のハート王国オーケストラや、ホカホカ合唱団がステージに立つことになりました。王様は、ほかにもだれか歌やえんそうを発表してくれる人がいないかとさがしました。すると、国民から、「マリーの歌がききたいなあ！」という声がありました。

王様はけらいにたずねました。「マリーというのはだれかね？」けらいはこたえました。「歌がとてもうまいとひょうばんの少女です。」「ほう！それはぜひきいてみたいものじゃのう！」「しかし…」けらいは顔をくもらせました。「いつも不安だらけだそうで、コンサートに出てこられるかどうか…」「ほお。しかし、国民がききたがっておる。なんとか来てもらえるとよいがのう。」王様はマリーに手紙を書いて、コンサートに来てくれるようたのみました。

コンサートの日になりました。マリーは王様の手紙をにぎりしめ、家の中に立っていました。「王様がわざわざ、わたしにお手紙をくださったのだから、行かなくては。」でも、いろんな不安がむねの中にわきおこって、動けないのです。「もし、うまく歌えなかったらどうしよう。この服も、みんなにわらわれるにちがいないわ。いや、その前に、おしろにつくまでに、じこにあって、ケガをするかもしれない。いえ、もしかしたら、わたしが家にいないあいだに、大じしんがおこって、家がくずれて、ペットのミャーミャがしんでしまうかもしれないわ。そもそも、王様のお手紙もなにかのまちがいで、『そんな手紙出したおぼえはない』なんて言われるんじゃないかしら。」次から次へと不安なことがうかび、時間だけが過ぎていきました。そしてとうとう、コンサートの始まる時間になっても、マリーは「ああ、どうしよう、どうしよう…」と言って、家から一步も出られずにいました。

そのとき、「トントン」家のドアをたたく音がしました。「マリー。わしじゃよ。王じゃよ。」王様のやさしい声が聞こえるではありませんか。マリーはびっくりして、ドアをあけました。そこには、王様がニコニコして立っていました。「マリー。いろいろ不安なのかね？」マリーは、目になみだをいっぱいためて、声をつまらせました。「はい、王様…。コンサートで歌わせていただきたいと思うのですが、いろんなことが不安で不安で、ぜつぼう的な気分になってしまって、一步も動けないのです。」「そうか、それは気のどくにのう…。」王様は言いました。そして「マリー、不安を作り出すのも自分。希望を作り出すのも自分じゃよ。」そう言って、マリーの手をとり、やさしく家からひっぱりだしました。「さあ、今から、希望を作り出しに行こう。」王様は、マリーといっしょに馬車に乗ると、おしろへと向かいました。

おしろにつくと、ステージではホカホカ合唱団の合唱がおわったところで、ちょうどマリーのじゅんばんにまにあいました。「さあ、マリー、ありのままのすがたでかまわん

のじゃよ。全力で歌っておいで。」 王様はそう言って、マリーのせなかを押しました。

マリーがステージにあらわれると、みんなが大はくしゅでむかえてくれました。 そののはくしゅに勇気もらって、マリーはいっしょうけんめい歌いました。 そのあまりの歌のうまさに、会場は「ほう…」と、感動につつまれました。

そして、マリーが歌いおわると、大かんせいと大はくしゅの中、こんな言葉が聞こえてきました。「まるで天使の歌声だ。心があらわれるようだったよ。」「わたし、とても悲しいことがあったのだけど、マリーの歌をきいて元気になったわ。」「本当にすばらしかった。明日からまたがんばれそうだ。」 マリーはむねがいっぱいになって、みんなになんども頭を下げて、ステージをおりました。 そこに王様がニコニコしてまっています。「マリー、本当によかった。がんばったのう。」「王様…！」 マリーは言いました。「わたしの希望は、わたしの歌をきいた人が元気になることだって思いました。 これからももっともっとじょうずに歌えるようになって、希望を作り出していきたいと思います。」

それから、マリーの心に不安なことがうかぶことはありました。 でも、1日1日、いっしゅんいっしゅん、みんなのよろこぶ顔を思いうかべながら、歌の力をみがいていきました。 すると、いつのまにか、不安は消え、希望でいっぱいになっていったのです。 そして、マリーの歌はますます、みんなの心を打つようになっていきました。

やがてマリーは、ハート王国でいちばんの歌手になりました。 王様もとてもよろこんで、年にいちど、おしろで「希望コンサート」というマリーのコンサートをひらくことにしました。 マリーは王様へのかんしゃの気持ちをわすれず、毎年最高のコンサートをひらいたので、国民にも大人気のコンサートになりました。 マリーの歌をきいた人は、どんな人も、希望でいっぱいになりました。 今日マリーは、希望の歌声をひびかせています。

不安だらけのマリー

版番号の予定

{{-
-}}

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
